

# TTC ゆった〜り山行実施記録表 v.1

2015年10月31日 報告者: MY

山行名	旧碓氷峠(1200m)〜霧積温泉/碓氷峠アプト式鉄道遺構・富岡製糸場〔群馬県/長野県〕					
実施日	平成27年10月25日(日)〜26日(月) 1泊2日 ハイース利用					
天候/参加人員	天候: 全日快晴 レベル: ★★ 参加者: 申込9名/実施9名 (男2名/女7名)					
パーティスタッフ	CL/計画/写真:、 SL:、 会計:、 救護:、 ドライバ: <b>スタッフ名削除</b>					
参加メンバ	、 (元 TTC メンバ) <b>参加者氏名削除</b>					
費用 一人:24,000円	<b>24,000円 (交通費¥11,904+宿泊費・入場料・通信費等¥12,045+カンパ金¥51)</b>					
カンパ金 454円	交通費 ハイースレンタル料金 (@16,848x2) ¥33,696、ドライバ謝礼 (@18,000x2+宿泊加算 2,000) ¥38,000、燃料代 (@110x(550+50)/5) ¥13,200、高速料金 (海老名-碓氷軽井沢 ¥5,990、松井田妙義-富岡 ¥720 富岡-圏央厚木 ¥4,800) ¥11,510、ドライバ宿泊費 ¥10,734/(a) 交通費計 ¥107,140/一人 @11,904 霧積温泉金湯館宿泊料金 (@9,800x1.08+入湯税 150)x9 人: 96,606、高岡製糸場見学料金 (@1,000x9) ¥9,000、富岡製糸場ガイド料 (@200x9) ¥1,800、通信費 ¥1,000/(b) 宿泊費・その他 ¥108,406/一人当り @12,045/総費用(a)+(b): ¥215,546/一人当たり: ¥23,950 集金 (@240,000x9) ¥216,000-費用 @ ¥215,546=残金 ¥454(カンパ金会計に繰り入れ)					
所要時間	10/25(日): 旧碓氷峠〜霧積温泉ハイキング			10/26(月): アプト式鉄道遺構ウォーキング		
	歩行時間	休憩時間	行動時間	歩行時間	休憩時間	行動時間
ガイドブック	〜3:00	—	—	〜2:30	—	—
計画	3:40	0:45	4:25	1:40	2:10	3:50
実行	3:03	1:16	4:19	2:25	1:00	3:25

## 実行コースタイム記録

### ◆6/25(日) 天候: 終日快晴 (旧碓氷峠〜霧積温泉ハイキング: 約9km 歩行数: 約21,000歩)

	(遅れたメンバ 1名 pick-up)	圏央道/関越道/上信越道	ハイース	0:05	0:07
鷹尾 = 厚木ヨ-カト-前 = 海老名駅 = 海老名 IC = 狭山 PA = 横川 SA = 碓氷軽井沢 IC = 旧碓氷峠 — 展望台 —					
6:00	6:13/6:21	6:40/7:26	7:35	8:15/8:24	9:38/9:56
	10:05	10:45	10:50/11:05		
	0:02 (力餅) 0:05	0:51	0:17		
熊野神社 — 見晴亭 — 旧中山道分岐 — 林道ゲ-ト(和宮道分岐) — (昼食) — 霧積温泉 3.2km(1:30)/熊野神社					
11:12/11:18	11:20/11:47	11:52	12:43/13:05	13:22	
	0:36	1:00 (体操)	宿送迎車		
3.5km(1:20)標識 — 美の平下林道終点 — 霧積温泉駐車場 = 霧積温泉金湯館(泊) 夕食: 18:00〜					
	13:58/14:04	15:04/15:25	15:45		

### ◆6/26(月) 天候: 終日快晴 (碓氷峠アプト式鉄道遺構ウォーキング & 富岡製糸場見学、歩行数: 約20,000歩)

朝食 6:45~/送迎車	ハイース/旧 R18	(体操)	0:06	0:26	0:05	0:07	0:20
金湯館 = 霧積温泉駐車場 = 熊の平駐車場 — 熊ノ平駅跡 — めがね橋上 — めがね橋下 — めがね橋上 —							
7:42	7:51/7:57	8:27/8:40	8:46/8:54	9:20	9:25/9:35	9:42/10:00	
(トイレ) 0:42	0:22	0:07	0:10 (昼食/トイレ) R18	上信越道			
碓氷湖 — 丸山変電所 — 碓氷関所跡 — 横川駅 — オキノヤトライイン = 松井田妙義 IC = 富岡 IC = 市営無料 P4 駐車場							
10:20/10:35	11:17/11:23	11:45/11:48	11:55	12:05/12:47	12:52	13:06	13:16
0:24 (見学)	0:35	上信越道/関越道/圏央道					
— 富岡製糸場 — 市営駐車場 = 富岡 IC = 狭山 PA = 厚木 PA = 圏央厚木 IC = 厚木ヨ-カト- = 鷹尾(終点)							
13:40/15:05	15:40/15:45	15:50	16:44/17:00	17:38/17:50	17:52	18:07	18:25頃

## コースの概要、特記事項、反省事項等

上州旧中山道坂本宿の北方の山間に位置する霧積温泉(旧碓氷温泉)は、江戸〜明治期にリゾート温泉地として栄え、40数軒の旅籠・別荘が軒を連ね、伊藤博文らがここで帝国憲法の草案を練り、勝海舟、与謝野晶子・鉄幹、西条八十等の多くの文人が湯治に訪れ、森村誠一の「人間の証明」の舞台になった。しかし、明治43年の大洪水による山津波により、上流に離れてあった明治16年創業の「金湯館」を除く、すべての旅籠・集落が消失。その後、金湯館主の実兄が下流に「きりづみ館」を再建したが、2013年に廃業。それ以降、「金湯館」一軒となり、宿泊客は鼻曲山の登山客が大半という山奥の秘湯になった。

霧積温泉に一度宿泊してみたいとの思いから、昨年、「ゆった〜り山行」として、歴史ある秘湯に宿泊して、名峰「鼻曲山」に登る計画を立てたが、実歩行時間6時間は7時間には少々きつ過ぎると、人氣がなく中止。そこで、今年の紅葉最盛期に、旧碓氷峠から霧積温泉へと辿る古道ハイキングと、アプト式鉄道遺構ウォーキング、世界文化遺産に登録された富岡製糸場を巡る1泊2日の楽々プランにリメイクして再募集し、応募者9名(もとTTCメンバ1名を含む)で実施する運びになった。

◆10/25(日) 朝寝坊して少々遅刻したムパを途中で pick-up してから、ムパ 9 名を乗せたハイエスは圏央道/関越道/上信越道を順調に走り、碓氷軽井沢 IC で高速を下り、旧碓氷峠に向かう。軽井沢駅前付近では、マラソン大会とかち合って少々回り道。車の迂回が途中までしかできない旧軽井沢銀座通りは、あふれる観光客に申し訳ないと頭を下げつつ徐行通過して、旧中山道のランドマーク「旧碓氷峠」に無事到着。まず一番先に絶景が広がる碓氷峠展望台に向かう。真っ青に澄んだ青空に、真っ赤な紅葉。南東方向には、奇妙な岩峰が連なる妙義山塊、西側には、盛んに噴煙を上げる浅間山の絶景を堪能する。峠に戻り、熊野神社参拝。長野と群馬の県境に跨って続く石段を登ると、右側の群馬県には「熊野神社」、左側の長野県には「熊野皇大神社」の社があり、社務所も別々。どちらの神社も熊野大社を本宮とし、八咫鳥を守り神とする。両神社とも依怙鼻負なく丁寧にお参りした後、茶店に直行して、名物「力餅」を注文。4軒の茶店のうち、景色が一番良い「見晴らし茶屋」に陣取り、親指大ほどの大きさのつき立ての餅に、餡、おろし大根、黄粉、ゴマ、ピーナッツの5種類の具を絡めた10個/一皿の力餅を注文し、皆でシェアして味わった。力がついたところで、霧積温泉に向けて出発。5分ほど進むと、右に旧中山道の標識。中山道最大の難所碓氷峠から、最初の宿場「坂本宿」までは急峻な山道を標高差 700m 下らなければならない。ここを往来した旅人は随分難儀したことだろう。左折すると留夫山から鼻曲山、浅間隠山へと続く上信県境尾根への登山口だ。林道をさらに 1km ほど進むと、車通行止めのゲートがあり、右手に下る立派な山道が分岐している。これが、途中で旧中山道に合流して坂本宿に下る「和宮道」らしい。皇女和宮が将軍家茂に嫁ぐため、江戸に下向する際、中山道を利用したそうだが、碓氷峠からの坂本宿へ下る街道の上半分は傾斜が急峻なことから、輿が楽に通れるよう、傾斜の緩い道をわざわざ作ったのが、この道らしい。ゲートを潜った先に続く林道は静寂そのもので、黄色を主体に染まる雑木林や唐松林の中を緩い up/down を繰り返しながら森林浴を楽しんだ。西条八十の詩「帽子」の一節「母さん僕の帽子/どうしたでしょうね?/ええ夏碓氷から霧積へ/行くみちで溪谷へ落した/あの麦わら帽子ですよ。・・・」は、この辺りのことらしい。1/25000 地形図では、霧積温泉に行くには、林道の途中から、左手の山道に入って標高差 260m 登って尾根を越え霧積温泉跡の駐車場まで標高差 500m 下るルートが表記されている。もしもこれが正しいならば、碓氷峠から3時間では到底辿り着けないハードなコースで、古くから往来があった旧中山道の脇街道にしては甚だ腑に落ちない?と思いつつ、1/25000 地形図とにらめっこしながら、約2時間歩みを進めていくと、林道は途切れ、「美の平下林道終点」の標識と、笹藪の中に続く急登の踏み跡の入口に霧積温泉まで1時間の標識があった。霧積温泉駐車場までは、標識通りたっぷり1時間の険しい山道。午後の日差しを浴びて黄金に輝く尾根の上に、名峰「鼻曲山」のシボル「大天狗」の岩峰が姿を見せる。碓氷峠を出発してから3時間余り、通行止めゲート以降一人のハイカーに出会うことなく、TTC ムパ 9 名独占の山旅を楽しんで、ドライブの I さん待つ、駐車場に無事到着。それにしても、1/25000 地形図記載の登山道の情報が、現場の状況とこんなに乖離していて、登山者を惑わせるというのも珍しい。備え付けの公衆電話から宿送迎車をお願いし、3:45pm に宿入り。紅葉の谷間に佇む一軒宿「金湯館」は3代のファミリー経営。標高約 1100m のこの温泉宿、真冬でも積雪は 10-30cm と少ないため、通年営業しているという。案内された部屋は明治 16 年創建時の総檜造り本館 2 階の 1 号室 4 部屋。食事をした角部屋は、伊藤博文が帝国憲法草案の起草に使った由緒ある部屋だという。早速お目当ての温泉へ。40℃と温めの弱アルカリ性高濃度硫酸カルシウム塩泉で、すぐ近くで地上に湧出した温泉を何も手を加えずに、ストリートに引き湯したこれぞまさしく真正銘の源泉かけ流し。女性陣は1時間近くも入浴を楽しんでいたようだ。素朴な温めの温泉だが、身体がホカホカとよく温まり、何度入っても心地よい。夕朝食とも山菜や鮎等を中心にした心のこもった盛りだくさんの料理が並び、満腹々々。

◆10/26(月) 朝風呂を楽しんでから、早めの朝食を済ませ、送迎車に送られて、8:00AM 前に駐車場に到着。ハイエスに乗り換えて、山道を坂本宿入口まで戻り、つづら折りのカーブが続く旧国道 18 号線を軽井沢方面に登り、途中の「熊ノ平駅下」で下車。数 10 段の階段を登って、本日の碓氷峠旧アプト式鉄道遺構ウォーキングのスタート地点となる旧信越本線「熊ノ平駅跡」に到着した。この場所は明治 26 年に横川-軽井沢間にアプト式鉄道が開通した際、熊ノ平給炭給水所として開設され、明治 39 年に駅に昇格。明治 45 年にこの区間での我国初の直流 1500V 電化、昭和 38 年に新線が敷設され、アプト式旧線が廃線になった後も、信号所としての機能を果たし、1997 年の長野新幹線開通に伴う軽井沢-横川区間廃線まで重要施設としての役割を担ってきたという。ここから「アプトの道」終点の横川までは、標高差約 250m/距離:5.9km。レールは取り払われ、10 のトンネルと 3 つの橋梁を繋ぐ片道約 2 時間半のウォーキングを楽しんだ。最大の見どころは、2 年の突貫工事で明治 26 年に完成し、昭和 38 年の廃線まで使用されたレール造り 4 連アーチ橋(高さ最大 31m/全長 91m)の碓氷第 3 橋梁で、めがね橋の愛称で呼ばれ、他の橋梁と共に国の重要文化財に指定されている。美しいアーチを描く橋脚を下から、上から、横から存分に眺め、紅葉に映えるアーチ橋に感嘆。途中、碓氷湖畔に降りたってトイレ休憩。坂本宿は割愛し、もう一つの重要な鉄道遺構で、同じく重要文化財の丸山変電所跡を見学。赤いレール造りの 2 棟の建物は、2002 年に完全に修復され、廃墟から明治 45 年の建築当時の姿に戻った。この変電所は、横川-軽井沢間のアプト式鉄道が電化された明治 45 年から廃線になる昭和 38 年まで、直流 1500V の電力を、アプト式電気機関車に供給し続けた。横川宿にある旧中山道碓氷関所跡を見学し、ゴールとなる JR 横川駅側にあるドライブイン「峠の釜飯おぎのや」で昼食を摂ってから、再びハイエスに乗って、最後の立ち寄り先である世界遺産「富岡製糸所」に向かった。富岡製糸場まで徒歩約 25 分と少々距離がある富岡駅近くの市営無料駐車場に車を駐車し、富岡市街の街並みや商店をのぞきながら、富岡製糸所に向かう。平日の月曜日だというのに、場内は大勢の見学者で溢れかえっていた。一人 1000 円の入場料の他、一人 200 円のツアガイド料を払って、ガイドさんに小一時間ほど重要施設を案内してもらい、明治維新直後の日本近代化に重要な役割を果たした官制製糸工場の歴史を学んだ。国宝に指定されている東西 2 棟の置繭所のうち、西置繭所は大改修工事中で、繭乾燥場は解体修理中だった。すべての予定を消化し、6:00pm 過ぎには厚木市に無事帰着した。